

作成日 2014/09/01

安全データシート

1.製品及び会社情報

化学品の名称	ニオイストップ
供給者の会社名称	環境改善株式会社
住所	〒270-0034 千葉県松戸市新松戸 3 丁目 243 グランデII 102 号
電話番号	047-711-8518
FAX 番号	047-711-8517
推奨用途	封水剤、業務用（一般用）

2.危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響	:
GHS 分類	
物理化学的危険性	: 区分 3
健康に関する有害性	
急性毒性（経口）	: 分類できない
急性毒性（経皮）	: 分類できない
急性毒性（吸入；ガス）	: 分類対象外
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	: 分類できない
皮膚腐食性／刺激性	: 分類できない
目に対する重篤な損傷／眼刺激性	: 区分 2 B
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 区分 1 A
特定標的臓器毒性（単回暴露）	: 区分 2
特定標的臓器毒性（反復暴露）	: 区分 2
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性・急性有害性	: 区分外
水生環境有害性・長期間有害性	: 区分外
オゾン層への有害性	: 分類できない

GHS ラベル要素



絵表示

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H226：引火性液体及び蒸気

H341：遺伝子疾患のおそれ

H360：生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

H371：臓器の障害のおそれ

H373：長期に渡る、又は反復暴露による臓器の障害のおそれ

H320：目刺激

注意書き

【予防】

P210：熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざける。禁煙

P233：容器を密閉しておく。

P235：涼しいところに置く

P240：受器を接地する／アースをとる。

P241：防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／他の装置を使用する

P242：火花を発生させない工具を使用する。

P243：静電気放電に対する予防措置を講ずる。

P280：保護手袋／保護衣／保護メガネ／保護面を着用する。

P260：粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しない

P264：取り扱い後は、付着した箇所をよく洗う。

P270：この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしない。

【対応】

P303+P361+P353：皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐ／取り置く。皮膚を流水／シャワーで洗う。

P370+P378：火災の場合：消火剤に粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂を使用する。

P305+P351+P338：眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。

P337+P313：目の刺激が続く場合：医師の診断／手当を受ける。

P308+P313：暴露又は暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受ける。

P309+P311：暴露した時、又は気分が悪い時：医師に連絡する。

P314：気分が悪い時は、医師の診断／手当を受ける。

【保管】

P403+P235：換気の良い場所で保管する。涼しいところに置く。

P405：施錠して保管する。

【廃棄】

P501：内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規制にしたがって廃棄する。

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

成分名（化学名）	化審法番号	CAS 番号	含有量
グリセリン	2-242	56-81-5	61~70%
流動パラフィン	9-1692	8042-47-5	21~30%
エタノール	2-202	64-17-5	7%
イソプロピルアルコール	2-207	67-63-0	1%

4.応急措置

以下の応急措置のあと、医師の診断を受ける。被災者に意識がない場合には、安全な場所へ移動させて速やかに医師の診断を受ける。

眼に入った場合：清浄な流水で15分以上、まぶたを指でよく開いて、注意深く、眼のすみずみまで十分に洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。

皮膚に付着した場合：多量の水および石鹸で、十分に洗い流す。

吸入した場合：新鮮な空気の場所に移動させ、うがいをして安静にする。

飲み込んだ場合：水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませる。可能であれば吐き出させる。

5.火災時の措置

消火作業では、消火剤に水を使用することを避ける。製品が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。

消火剤：粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤：棒状の水

火災時の特定危険有害性：燃焼ガスには、有害ガスが発生する恐れがあるので、消火作業の際には煙の吸入を避ける。

特有の消火方法：火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消化する。消火作業は可能な限り、風上から行う

消化を行う者の保護：消火作業では、適切な保護具を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項	：作業には必ず保護具（手袋・眼鏡・マスク等）を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	：漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
除去方法	：少量の場合、吸着剤（土・砂・ウエスなど）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。多量の場合、土砂等で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。 漏洩箇所の残分は、消石灰などで中和し環境に対する注意を十分に行ったあとに大量の水で洗い流す。
二次災害の防止策	：付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。被害が拡大する危険性があるので立ち入れ禁止などの措置を行う。回収物の収納容器には、漏洩物の履歴などを明記し、内容物の処分を行うまで適切な保管をする。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	：仕様時に飛散しない対策をする。
注意事項	：火気厳禁。適切な保護具を着用する。
安全取扱注意	：作業場の換気を十分行う。

保管

安全な保管条件	：火気厳禁。直射日光厳禁。40 度以上となる場所での保管は避ける。通気の良い場所で、容器を密閉し保管する。
安全な容器包装材料	：製品使用容器に準ずる。

8.ばく露防止及び保護措置

設備対策：長時間あるいは大量にミストまたは粉塵が発生する場合は、状況に応じた換気装置を設置する。取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

管理濃度：イソプロピルアルコール；200ppm

許容濃度：日本産業衛生学会（2009 年度版）：（イソプロピルアルコール）

400ppm,980mg/m³（鉱油ミスト）；3mg/m³

ACGIH 勧告値（2008 年度版）：鉱物油；TWA 5mg/m³

エタノール；TWA1000mg/m³（イソプロピルアルコール） TWA；
200ppm,STELC：400ppm

保護具

呼吸用保護具	: 必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること
手の保護具	: 保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護	: 側板付き保護眼鏡
皮膚保護	: 長袖保護衣

9.物理的及び化学的性質

以下に本製品の代表的な性状を記載する。

物理状態

外観	: 液体
におい	: わずかに特異な臭いがある

物理的状态が変化する特定の温度

融点	: 常温で液状
沸点	: データなし
引火点	: 27°C (タグ密閉式)
pH	: 6.7 (1g/100g 水溶液)
溶解度	: 水に溶けにくい
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
比重	: 1.11 (25°C)

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常取り扱いにおいては安定である。
安定性	: 通常取り扱いにおいては安定である。
避けるべき条件	: 特になし
避けるべき材料	: 特になし

11.有害性情報

急性毒性	: データなし
皮膚腐食性／皮膚刺激性	: データなし

眼に対する重篤な損傷性: (イソプロピルアルコール) ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性 1) (エタノール) ウサギ Draize 試験 (OECD TG405) において中等度の刺激性。(SIDS (2009)、DFGOT Vol.12(1999))、適用後1~3日目に角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫が認められた。MMAS が 24.0 {ECETOCTR48(1998)}、かつ7日以内に症状がほぼ回復し

た。(ECETOC TR No.48(2)(1998)) 2)上記の情報を考慮して
区分 2B に分類した。

皮膚感作性 : データなし
生殖細胞変異原性 : (エタノール) マウス及びラット経口投与による優性致死試験
(生殖細胞 in vivo 経世代変異原性試験)において陽性結果
(SIDS(2009)、LARC(1988)) (区分 1B) 2)

発がん性

LARC : 認定されていない

NTP : 認定されていない

日本産業衛生学会 : 認定されていない

生殖毒性 : (イソプロピルアルコール) ラット催奇形性なし。
EHC(1990),SIDS(1997)、ACGIH (2003) 親動物に妊娠率の低下、
吸収胚の増加、胎児死亡の増加などの生殖毒性が認められた。
(区分 2) 1)

(エタノール) ラット及びマウス 経口投与による一世代試験
では影響なし (SIDS(2009))、マウスの二世代試験で同腹生存子
数の減少が見られた (SIDS(2009))、またラットの妊娠期間中の
経口投与による一部の試験で多指症、多合趾症などの奇形が報
告されている (LARC vol.44(1987))。(区分 1A) 2)

特定標的臓器毒性 (単回暴露)

: (イソプロピルアルコール) ヒトでの経口摂取による急性中毒
では消化管への刺激性、血圧、体温などの低下、中枢神経症状、
腎障害が認められた ACGIH(2003)、CERI ハザードデータ集
(1999)、標的臓器は中枢神経系、腎臓及び全身毒性と判断 (区
分 1) 1) 含有量を考慮し、区分 2 に分類した。

特定標的臓器毒性 (反復暴露)

: (エタノール) ヒト 摂取における肝臓への障害は脂肪変性に始
まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する
(DFGOT(1996)) (区分 1、肝臓) アルコール中毒患者の禁断
症状 (痙攣) となると述べられている (HSDB (2003)) (区分 2、
中枢神経系) 2)

含有量を考慮し区分 2 に分類した。

吸引性呼吸器有害性 : データなし

12. 環境影響情報

生態毒性 : データなし

残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: 物理的及び化学的性質から、水域および土壌環境に移動する可能性がある

13. 廃棄上の注意

内容物／容器を土壌、水域あるいは下水などへ廃棄をしない。
 廃棄物処理法および関係法規・法令に従って適切に処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制

航空輸送は IATA、海上輸送は IMDG の規則に従う。

国内規制

陸上輸送	: 道交法、消防法、安衛法の関係法令に従い輸送する
海上輸送	: 船舶安全法などの関係法令に従って輸送
航空輸送	: 航空法の関係法令に従って輸送
緊急時応急措置指針番号	なし

輸送の特定の安全対策及び条件

輸送前に容器の破損、腐食、漏れがないことを確認する。
 転倒、落下、破損の無いように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。
 製品が規制を受ける法規に従った輸送形態及び輸送方法を確実にを行う。

15. 適用法令

安衛法	: 表示対象物質 2 の 3 号「イソプロピルアルコール」 通知対象物質第 495 号「イソプロピルアルコール」 第 61 号「エタノール」を含有
化審法	: 優先評価化学物質 第 102 号「イソプロピルアルコール」含有
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
PRTR 法	: 該当しない
高压ガス保安法	: 該当しない
航空法	: 該当しない
船舶安全法	: 該当しない
火薬類取締法	: 該当しない
海洋汚染防止法	: 該当しない

16. その他の情報

引用文献

- 1) NITE GHS 分類結果 (ID928: イソプロピルアルコール)
- 2) NITE GHS 分類結果 (ID662: エタノール)

日本界面活性剤工業会「界面活性剤の警告表示に関するガイドライン」(H7.10)
「界面活性剤等の MSDS 作成ガイドラインと主要製品の標準 MSDS モデル」
(H13.11)

日本界面活性剤工業会「界面活性剤の GHS 対応 MSDS 作成ガイド」(2010 年版)

上記の内容は、当社が保有している情報に基づいて作成したものです。しかし、化学製品には、道の有害性があると一般的には考えられています。したがって、記載されているデータおよび評価は、すべての使用条件に対して安全性を保証するものではありません。最新の注意をはらい、安全に使用する条件を設定してください。